

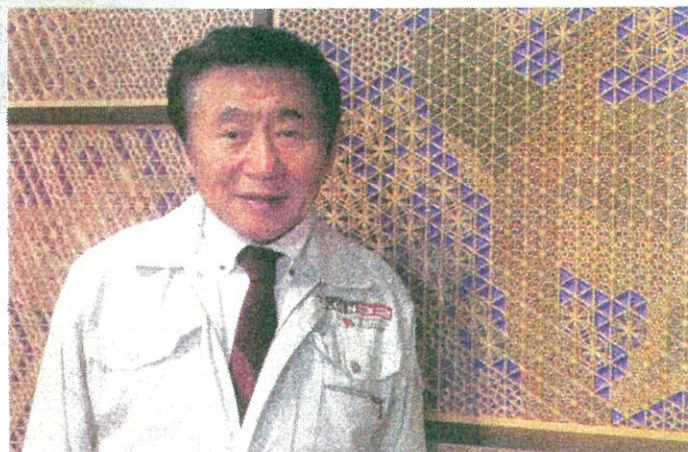
第74回「全国植樹祭」の式典(国土緑化推進機構、岡山県主催)が今年5月26日、ジッパアリーナ岡山(岡山市北区)で開かれる。天皇皇后両陛下をはじめ、県内外から大勢の来賓や来場者を迎えて記念植樹などが実施される。岡山県では57年ぶり2度目の開催となり、着々と準備が進んでいる。

会場で両陛下がお掛けになる「御座所」の背面パネルと入場門の製作を手掛けるのは、真庭市下方の建具家具製造会社・佐田建美。2022年のコンペに応募し、両案が採用された。デザインを考案した佐田時信社長(72)は「1級建築士やデザイナーたちがいる中で、まさか2件とも採用されるとは驚いた。以前から職人として持てる力を振るい、皇室のために仕事ができたい」と強い憧れがあったので、機会に恵まれてうれしく思う」と意気込みを込めてスタッフ一同も汗を流している。

佐田建美は、和室の欄間や障子に用いられてきた組子(木製)を芸術品に昇華させ、地元の名産「真庭組子」としてさまざまな商品を展開。くまを使わずに細い木片を組み合わせていく幾何学的な模様、緻密な装飾は多くの人を魅了し、作品の一つが東京都の名門ホテル「The Okura Tokyo(オークラ東京)」のロビーを飾る。また「木製スーパーカー・真庭」などユニークな作品も発表。2000件以上の国内外のメディアに取り上げられて話題を呼んだ。

世間を驚かせる斬新な発想はどこか

デザイン考案・真庭の佐田建美 佐田時信社長(72)



斬新なアイデアで多様な活躍を見せる佐田社長

「麻の葉」
「桜」
「コスモス」

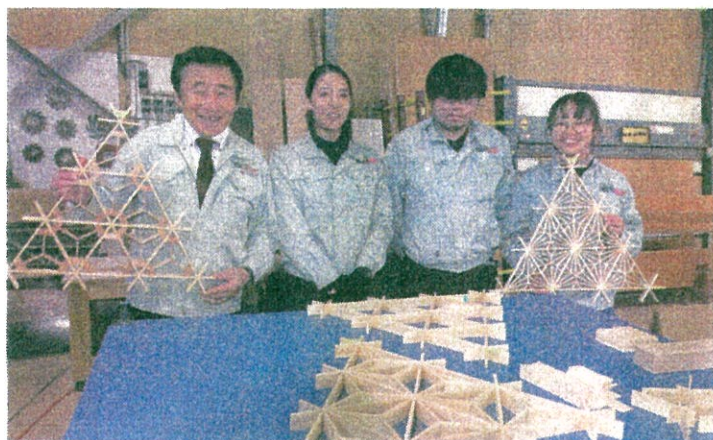
模様を古来の木工技法組子で

「麻の葉」や形式にとらわれず「思い」を大事にしている。一瞬の思いつきやひらめきで仕上げた作品と、普段から考えを巡らせ、思いを蓄積させていく作品とは作りこみ、完成度が違う」と強調する。

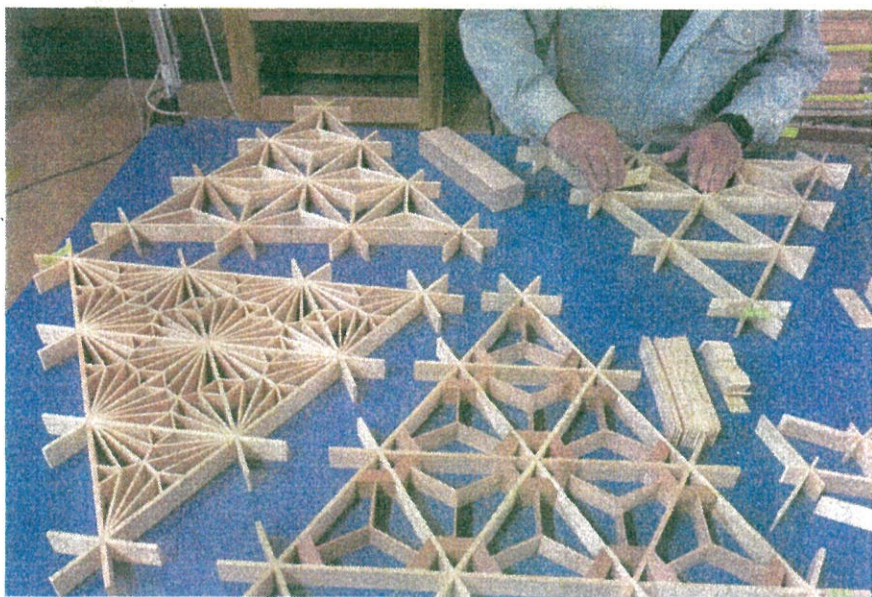
「麻の葉」は「岡山県を象徴するもの」がテーマ。佐田社長は「形や形式にとらわれず、思いを大事にしている。一瞬の思いつきやひらめきで仕上げた作品と、普段から考えを巡らせ、思いを蓄積させていく作品とは作りこみ、完成度が違う」と強調する。

「麻の葉」は「岡山県を象徴するもの」がテーマ。佐田社長は「形や形式にとらわれず、思いを大事にしている。一瞬の思いつきやひらめきで仕上げた作品と、普段から考えを巡らせ、思いを蓄積させていく作品とは作りこみ、完成度が違う」と強調する。

桜、コスモス、麻の葉の組子装飾



御座所背面パネルの制作を行うメンバー



しており、神秘性と強い創造性を感じるとしてこだわった。「採用されたのは、技術や見た目だけでなく、この「物語」が決め手だったのかも知れない」と話す佐田社長。「時代が変化の中で、長く仕事を続けていくにはアイデアを提案する力を持つことが必要とされる。夢や憧れ、目標を持ち、いざチャンスが来た時のためにどう行動するのが成功の秘訣だ」と日々の努力と試行の積み重ねの大切さを述べた。

また、夢を実現する覚悟を得るきっかけとなった人との「縁」についてもふれ、「今回応募できたのも、県木材組合連合会と県建築士事務所協会が教えてくれたおかげ」と感謝の気持ちを示す。自身が心に留めているという徳川将軍家の剣術指南役を務めた柳生家の家訓「小才は縁に合って縁に気が付かず、中才は縁に気が付いて縁を生かさず、大才は袖すり合つた縁を生かす」を振り返りながら、「偶然の出会いも大切にしていくな」と深いつながりへと発展する。改めて人とのつながりの大切さを実感していると語った。



CLTゲート制作に取り組むメンバー

全国植樹祭で 両陛下の「御座所」 背面パネルと入場門を製作